



網走管内国際理解研究会

平成 20 年度 第 1 号

平成 20 年 7 月 15 日発行

会長挨拶

網走管内国際理解教育研究協議会

会長 吉野 経夫（北見市立常呂小学校校長）

会員の皆様には、それぞれの学校で、教室で指導力を発揮していることと思います。昨年は、国際理解教育の全道大会を北見で開催し、成功裏に終えることができましたが、これも会員の先生方のご尽力の賜と考えております。また、同時に、積極的な関わりから、多くのことを学ぶこともできたのではないのでしょうか。

その実績を受けて、新体制の中、5月の海外子女教育研修会から平成20年度がスタートしました。研修会では、3月に在外施設から戻られた2名の先生方の海外での活躍の様子を視聴できたこと、長浦指導主事様の模擬授業など体験することができたことなど、あらためて学ぶことが多かった研修会でした。引き続き1週間後には、在外施設派遣希望者の学習会を実施しました。新たな派遣者を期待しているところです。

さて、平成20年3月に小学校学習指導要領が告示され、5・6年生で35時間の外国語活動（英語語活動）が定められ、全ての学校で行われることになりました。活動の目標は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養う」とあります。

先日学校に配付された「小学校外国語活動研修ガイドブック」を読みますと、この35時間の活動が、どちらかというコミュニケーション能力に係わっての言語活動に比重があり、これまで取り組んできた「いつでも どこでも どの教科でも」という国際理解教育の活動が縮小される？ような感じを受けています。会として、この状況をどう捉え、分析し、検討を進め、これからの国際理解教育の方向性（コミュニケーション能力の育成、異文化理解や国際交流等）やカリキュラム作成等について、理論と実践を通して確立していくことが大切だと思います。

本会員の先生には、何かと、忙しい現場の中で、それぞれの学校の研修以外の実践という大変な状況ですが、これまでの実践を生かしつつ、管内の先駆者としてこの課題に取り組んでいって欲しいと願っています。

平成20年度 網走管内国際理解研究会 役員

会長	吉野 経夫（常呂小学校校長）		
副会長	光成 英二（若松小学校校長）	副会長	吉田 寛（訓子府小学校校長）
副会長	高柳 修（安国小学校校長）		
監事	国兼 秀也（置戸小学校校長）	監事	加藤 一大（留辺蘂小学校校長）
監事	石橋 壽春（東陽小学校校長）		
事務局長	櫻田 弘道（若佐小学校教頭）		
事務局次長	石田 篤司（小泉小学校教頭）	事務局次長	菅原 敏明（渚滑小学校教頭）
事務局次長	藤田 俊一（興部小学校教頭）		
会計	小野寺 哲浩（豊丘小学校教頭）		
研究部長	佐藤 文昭（上常呂小教諭）	組織部長	大石 剛（紋別小学校教頭）
情報部長	長崎 祐紀（相内小教諭）		

平成20年度 網走管内国際理解教育研究大会 美幌大会 開催！

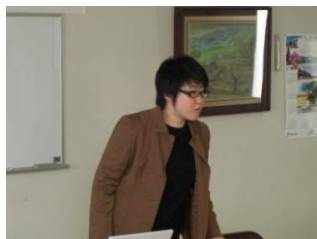
(大会主題) **自分と地球をつなぎ、未来を切り開く児童生徒の育成**

日時は平成20年9月12日(金)で、美幌小学校を会場に開催されます。授業者の先生は美幌小学校の相馬一之教諭です。みなさんのたくさんのご参加をお待ちしています。

管内国際理解研究会の今後の動き

- 在外教育施設派遣教員選考(文科省選考) 未定 文科省
- 網走管内国際理解教育研究大会美幌大会 平成20年9月12日(金)
～美幌町立美幌小学校
- 北海道国際理解教育研究大会空知大会 平成20年10月10日(金)11日(土)
～ 岩見沢市 美唄市 長沼町
- 北海道国際理解教育研究協議会・研修会・報告会・激励会 平成21年3月上旬

海外教育事情研修会



去る5月11日(土) 端野町公民館にて海外教育事情研修会が行われました。私はいつもこの研修会を楽しみにしています。海外から戻られた先生方のお話を聞いていると、自分も海外での教育に携わったような気持ちに、少しだけなれるのです。新鮮な「世界」のお話は、体験談だけに心に響くものです。楽しいことだけでなく、辛かったお話も含めて、とても勉強になりました。

講演は長浦紀華指導主事をお迎えし、海外における教育の現状と課題についてお話しいただきました。話だけではなく、参加者がそれぞれ中学生にもどったつもりで、白地図に「カカオの生産ベスト10」を調べつつ、シールを貼る作業をしました。その後グループにて話し合い活動しながらの講演となりました。データを提示し、話し合いながら、知的好奇心をもたせるといふ、本来の学習の姿について再認識しました。

その後は帰国されたお二人の先生方の報告をいただきました。それぞれの国の楽しいお話に、参加者のみなさんは聞き入っていました。特にこれからの派遣を希望されている先生方には、興味深いお話が多く、参考になったようです。

発表者 河原 賢 教諭 (南アフリカ ヨハネスブルグ日本人学校)
天野 昌明 教諭 (フィリピン マニラ日本人学校)



ありがとうございました。

(おねがい) 会費の納入はお済みでしょうか? 3,000円です。まだの方、お忘れの方は下記の口座までお願いします。お問い合わせは会計、豊丘小学校 小野寺哲浩教頭先生まで

■ 口座振込 郵便局 19980-3387981 小野寺哲浩 宛

アッサラーム・アレイクム

～パキスタンからのお便り～

イスラマバード日本人学校 島山 稔

「アッサラーム・アレイクム」…ここパキスタンの人々が交わす一般的な挨拶である。英語で言えば、Hello にあたるだろう。朝でも昼でも夜でも、彼らはこの挨拶を交わす。アラビア語を知っている方は、なんだ同じじゃないかと思われるだろう。この国でいわゆる国語として使われているウルドゥー語は、ヒンドゥー語を基礎として、アラビア語やペルシア語、あるいは英語も取り入れた言語である。

ちょっと難しい話を最初からしてしまった。もっとここでの生活から見えてくるパキスタンを紹介することにしよう。

まずは車の話から。ふだんはのんびりとした生活をしているのに、運転はせっかちで荒っぽい。ちょっとでも遅い車が前にいれば、対向車線にはみ出し追い越していく。対向車が来ていても追い越すものも多い。「うわ、ぶつかる！」と何度も思ったが、意外とぶつからないということがこの国に来てわかった。対向車もぶつかるのはさすがに嫌だから、よけていくのだ。そんな運転があちこちでされるので、街中でクラクションが鳴り響く。そしてそれに拍車をかけるのが、歩行者である。至る所で車をすり抜けながら、歩行者が横断していく。「出てくるな！」と言わんばかりに、運転手たちはクラクションを鳴らしたり、パッシングをしたりする。

こんなせっかちな運転手のために、工夫されていることが2つある。1つは交差点での左折。信号が赤であろうと、いつでも左折はして良いことになっている。もう1つは、赤信号の待ち時間の表示。あと何秒で赤信号が終了するのか秒数が表示される交差点が多い。(ただし、これは首都のイスラマバードだけかもしれない)

いわゆるネズミ取りはこの街でもよく行われている。とばす車が多いので、よくひっかかるようだ。しかし、日本では厳罰に処される飲酒運転の検挙が皆無である。理由は簡単。この国はイスラム教の国。正式な国名も「パキスタンイスラム共和国」である。イスラムの教えで、お酒は禁じられており、酒屋もちろんのこと、私の愛する居酒屋も当然ない。飲酒運転というものがそもそも存在しない国なのである。

大人の話にばかりなってしまった。少し子どもに目をうつそう。公園、空き地、道路、とにかく場所があれば、この国の子どもたちはクリケットをやっている。時には大人たちも。最も人気のあるスポーツは間違いなくクリケットである。新聞のスポーツ欄には毎日必ずクリケットの写真がでかでかとなっている。

でも、街中でクリケットをする子どもたちは、みな男の子である。女の子は家にいることが多いようである。だいたい女性をあまり見かけない。これまたイスラムの教えである。街に出かけるときも、肌を露出することはない。敬虔なイスラム教徒にいたっては、目しか出さない。

我が家の近くには男子校があり、朝は登校する多くの男の子を目にする。しかし、この国では学校に通えない子どもも、少なくない。交差点で信号待ちをしていると、みすぼらしい服装で、車の窓をたたいてお金をねだる子どもによく出会う。こういった子どもたちは、間違いなく学校には行かせてもらっていない。

なんだか、とりとめもない話になってしまった。紙面の都合で、日本人学校の子ども達の様子も伝えられなかった。また、別の機会に。お楽しみに。